

とうきょう すくわくプログラム



つぼみ組（2歳児）（第13回目）3月11日

【活動内容】『見えている世界は変わった？』

約1年間、園庭の探索や遊びを共にしてきた牛乳パックのバックを手に、「宝探しに行こう」と最後の自然物探しを行いました。春から使い続け、変形して愛着の深まったバックを園庭に持ち出し、今の自分たちが心惹かれる石、葉っぱ、枝などを自由に収集しました。

【活動の為に準備した素材や道具・環境設定】

一人ひとりの牛乳パックバック、カメラ

【子ども達の姿と発見】

変形しても大切にしてきた自分のバックを手に持ち、園庭の好きな自然物を探し集めていました。以前とは違い、単に石を集めるだけでなく「いろんないし〜」と形の違いに気付いたり、「ピンクのおはなおちてたよ」とあんずのつぼみを見つける季節の移り変わりに触れる姿もありました。その後、集めたお宝をバックと一緒に飾り、1年間の歩みを保育室等に展示しました。

【1年間のまとめ】

「自然」をテーマにした探究活動を通し、子どもたちは自分が感じたこと、発見したことを言葉にして表現できるようになってきています。保育士等に伝えてくれるだけでなく、今では友達同士でこんな自然が「あったよ」と共有する姿も増えています。また保育士等の立場からは、子ども達の「自然への視点」がとても豊かになったと感じています。例えば、最初は園庭を俯瞰する「広い視点」でとらえていましたが、活動を重ねるごとに子どもたちの足元の「小さな視点」、そして土の中や感触、音、といった「目に見えない探求的な視点」まで発展して捉えるようになりました。この視点を持てたことで、より子どもたちと一緒にわくわくしながら活動をすることができたと感じています。

そして今回、使い込まれた牛乳パックバックを展示できた事は、子ども達の「1年間の歩み」を表現することにも繋がられたと考えています。今回の「豊かな視点や表現」、「物を大切にできる心」の経験や体験は、これから一人一人の成長として見守っていきたいと思います。

